

News Letter



タテジマキバガ幼虫が綴り合わせたチゴザサの葉

タテジマキバガと聞いて、「あの蛾ね」と思う人はまず居ないでしょう。「開張約10mm。頭部、胸部、前翅は黄褐色で、前翅翅脈上に黒条を持つ。」- 図鑑で特徴を記述すると、たったこれだけで終わってしまう小さな蛾は、私にとってはあこがれの種でした。

研究室に配属が決まり、最初に取りかかったのが、タテジマキバガが含まれる属の分類でした。他の構成種は夜間採集などで採れるのですが、タテジマキバガだけがどうしても採れません。インドではイネの害虫として報告もあ

り、日本でもマコモやガマにつくと記録されているので、水田なども見るのですが、どうしてもダメでした。大阪の自然史博物館や大学の所蔵標本もチェックしたのですが、そこにもほとんど標本がなく、結局見ることができたのは数個体の標本だけでした。

それが、昨年トンボの調査で訪れた放棄水田で、クサヨシやチゴザサを綴っているキバガと思われる幼虫を多数見つけました。それを飼育したところ、予想通りタテジマキバガが羽化してきました。

私が採集した環境が温暖な地域の低地のイネ科が優先する放棄水田であったこと、沖縄での低地湿地の蛾類に関

タテジマキバガ

する論文でもタテジマキバガが載っていること、これまでの寄主植物の記録から、どうやらタテジマキバガは温暖な地域の湿地が本来の生息環境のようです。

タテジマキバガは、イネ科が優先する湿地を指標する種かもしれないと思っていますが、まだまだ生息環境に関するデータが不足しています。今後、イネ科に注目してデータを蓄積していきたい、そのうちどこかに発表できたらと思っています。

蛾類はチョウに比べて生態的な知見が少なく、レッドデータブックなどに掲載されることが少ないのが現状です。その陰で指標性が高く、絶滅の危機に瀕している種も少なくないと思います。タテジマキバガはそのような種の一つかもしれません。

(大阪支社自然環境研究室・上田達也)



タテジマキバガ幼虫



タテジマキバガ蛹



タテジマキバガ成虫

目次

エッセイ	タテジマキバガ	1	研究紹介	ハチエカメムシウォンテッド	6
業務紹介	猛禽類調査におけるGIS活用方法	2	ある日のフィールドノートから	なにしてまんの?	8
マンガ	調査員物語	5			

猛禽類調査における

GIS活用方法

猛禽GISの紹介

自然環境調査の中で、鳥類調査から「猛禽類調査」が独立して行われるようになったのは比較的最近のことだと思います。北海道において本格的に猛禽類調査が始まったのは、私の記憶では今から7,8年前のこと……。その当時と比べると、

取得するデータ項目数のみならずデータ整理・とりまとめの手法も大きく変わりました。

「猛禽類調査」は他の調査項目と比べ、毎月実施される調査頻度、調査地点数の多さ等から、取得データは膨大な量

になります。その膨大なデータを処理するために、数年前からGISを用いたデータ処理を進めてきました。今回は、猛禽類調査におけるGISの活用方法（猛禽GIS）についてふれたいと思います。

これから紹介するGIS処理にはArcViewを使用しています。ArcViewは、GISソフトウェア市場で世界トップシェア（米DARATECH社調べ）を誇り、今後のGIS主力ソフトとして期待が持たれています。

（北海道支社自然環境研究室
嘉藤慎譲・今野尚美）

猛禽GISを使用した 猛禽類調査の手順

- 調査計画準備から

データ取得・処理・出力まで -

1. 現地調査を始める前に

過年度データのGIS化

過年度データをGISデータ化・処理することにより、過年度調査における課題を再整理することができます。

また、今後の調査における調査箇所を選定（絞り込み）や調査目的が明確となり、今年度データとの比較材料として利用できます。

数値地図の利用

- 観察範囲の作成 -

調査地点からの観察範囲内における標高の高低差を利用し、任意のメッシュ内における可視不可視を表示させて観察範囲を作成します。複数地点からの観察範囲が事業対象地全体を見渡せるか否かの判断を行うことにより、定点配置等の選定に役立ちます。

また、事前に可

視不可視を表示させた図を参考に、現地で視野図（図1）の作成を行うことにより、調査者の負担を軽減することが出来ます。

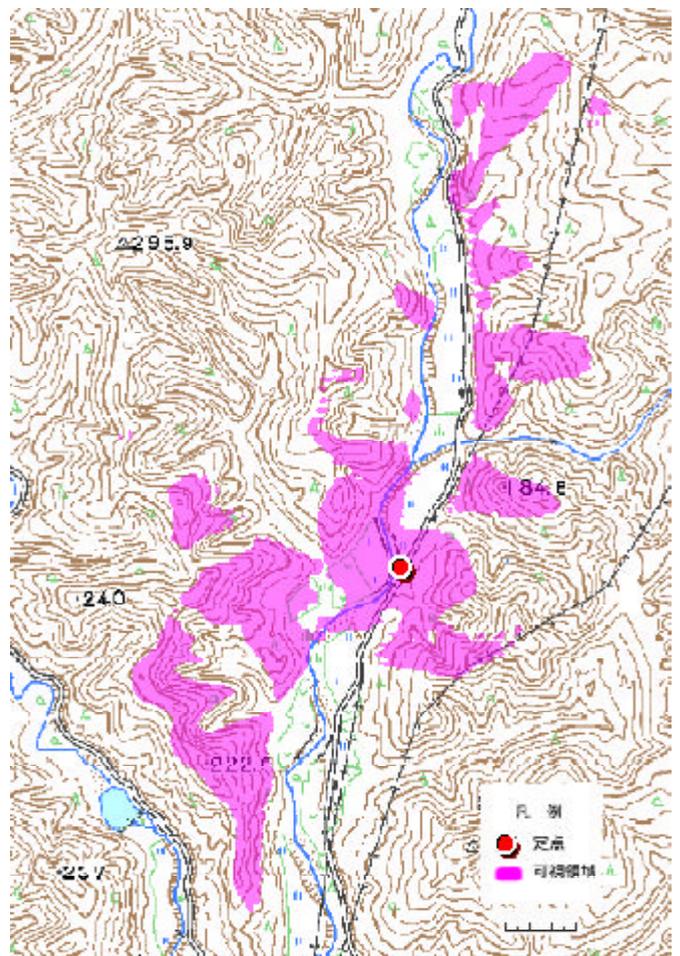


図1 視野図

【コラム】猛禽類調査とは

主に希少猛禽類（イヌワシ・クマタカ・オオタカ等）を対象とした生息確認調査・繁殖確認調査のことを指します。猛禽類は生態系の上位種として扱われるため、特定種に絞り込んだ調査を行うようになりました。

調査手法は目視確認調査（定点観察・現地踏査等による調査）が主体となります。最近では、CCDカメラを利用した繁殖状況確認調査やラジオテレメトリー法による追跡調査も行われるようになりましたが、営巣地の特定・事業対象地の利用状況の把握を目的とした場合は、今後も目視確認調査が主流となると考えます。

種名、確認時間、消失時間、性齢、飛翔高度、確認位置、消失位置、消失環境、ディスプレイ種類、ハンティング種類、とまり位置、とまり時の状況等、現地で取得したデータをGISデータとして、入力して作成します。

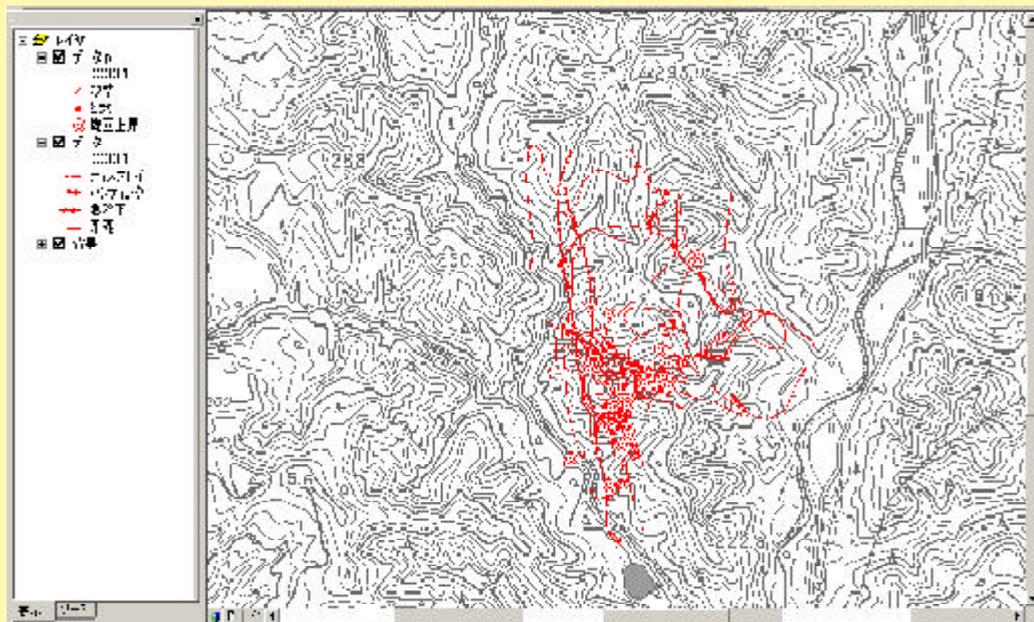


図2 飛翔図

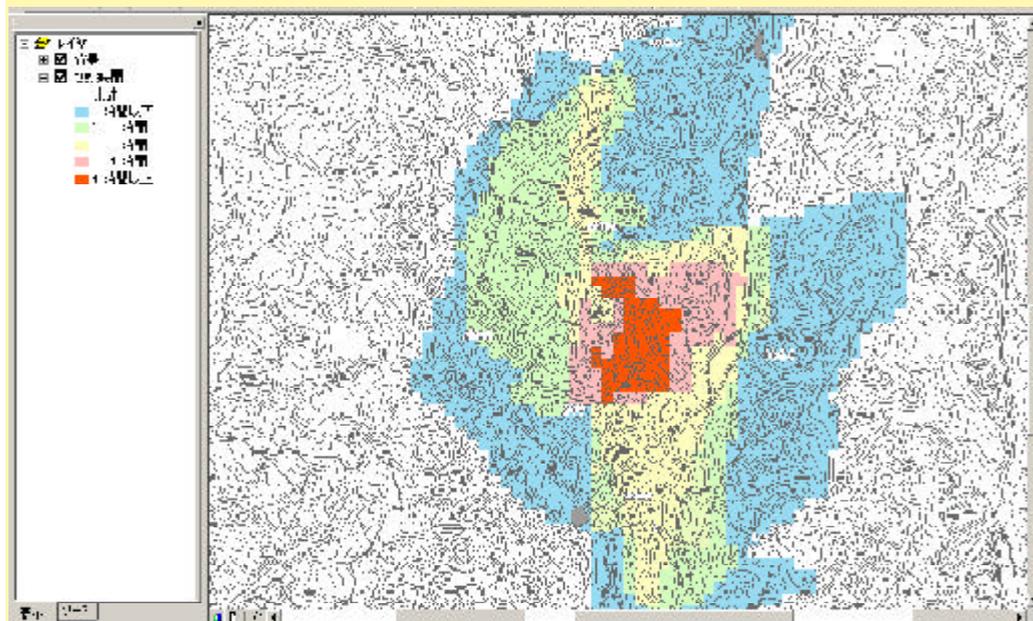


図3 メッシュ図

現地調査データ、観察時間、視野図を用いて、任意の大きさに設定したメッシュ内における出現回数、出現時間、出現頻度等を算出して作成します。

注) 図のデータは架空のものを使用しています。

2. 取得データをGISデータにする

飛翔図を書くために

種名、確認時間、消失時間、性齢、飛翔高度、確認位置、消失位置、消失環境、ディスプレイ種類、ハンティング種類、とまり位置、とまり時の状況等、現地で取得したデータをGISデータとして入力します。調査デザインを明確にした上で、データを細分化して入力することにより、指標行動の抽出や識別つがい別飛翔ルートを表示等、様々な表現方法が可能となります(図2)。

メッシュで考える

現地調査データ、観察時間、視野図を用いて、任意の大きさに設定したメッシュ内における出現回数、出現時間、出現頻度等を算出します。

1つのメッシュにおける出現回数等のカウント方式は仕様によって異なりますが、カウント方式によってデータの優劣が極端に出ないように設定します。現地調査結果をメッシュに置き換えて表現し、確認されたメッシュの連続性を読みとることにより、調査地区における利用状況の濃淡を表現できます(図3)。

複数の視点から考える

猛禽類調査で得られた調査データをベースに、他項目からの視点(植生調査結果、哺乳類調査結果等)を取り入れ、総合解析を行います。餌資源の年次変動による繁殖への影響、代替環境下でのシミュレーション、営巣適地分布図の作成等、単一の調査結果では表現できなかったものが可能になると考えます。

また、地形データや衛星画像の利用も今後期待できる材料の一つになると思います。

**GISだから出来ること。
「お絵かきソフトとの違い」**

GISとはGeographic Information System：地理情報システムの略称です。

お絵かきソフトとの大きな違いは、線・点・面の情報を複数のレイヤーで管理するお絵かきソフトに比べ、GISソフトでは線・点・面データが独立した位置情報を持ち、各データが更に複数のデータ（属性情報）を持ちます。つまり、位置情報と属性情報を個別に持つことにより、データの自由な組み合わせが可能となります。

しかし、取得したデータをやみくもに入力すれば良いとは限りません。本システムにおいては、取得したデータを最大60項目にわたる細目に分け、調査デザインを明確にした上で細目の内容を更に検討するようにしています。

GISだから出来ること。それは、継続的なデータの積み重ねから、全体的な自然環境の把握を行い、単年度・単項目では見えなかった視点の発見が可能になることと考えます。

GISコストは割高か？

GISと聞くと、先進的である、データベース化が進む、ビジュアル的で判りやすい、という意見の反面、どこまで役に立つのか、難しい、高コストといった、イメージがあることも確かだと思います。実際、業務の作図にGISを使用する場合と、お絵かきソフトを使用する場合では、作図機能に特化しているお絵かきソフトを使用した方が安くなります。

しかし、前述のようにGISの活用意義は作図にあるのではなく、複数年にわたるデータや確認位置に付随したデータの組み合わせにあります。公共性の高い事業においては、次に繋がるデータとして残す意義があると考えます。継続性の高い業務や複数項目にわたる業務にGISは切り離せないツールとなっています。

GISは難しいからコスト高となるのではなく、次に繋がる付加価値のあるデータ構築には、多少お金が掛かると考えてはいかがでしょうか。

今後の課題

いくつもの要素を取り入れて、その情報を一元管理・一括処理のできるGISは画期的なツールだと思いません。その反面、GIS処理した図面等が調査結果を素直に表現していなくて

も「それらしく」見えてしまうこともあると思います。

猛禽類調査におけるGIS活用も、出現頻度の計算方法、観察時間の定義が一部マニュアル化され、パソコンを使った統計手法も日々進化したこともあり、ここ数年でGISを取り巻く環境も大きく変わりました。

当社では、猛禽GISをはじめとしたGISの活用は全社的な取り組みとして、精度の高いデータ作成や環境解析を目指して行ってきました。

GIS技術は日々進歩しますが、その材料となるデータは現地調査から生まれてきます。今後も当社が培ってきたフィールドでの経験と技術を生かし、現地調査から得られた生きた調査データと進化するGIS技術を活用して、複数の視点から見てくる本質を表現していきたいと思いません。

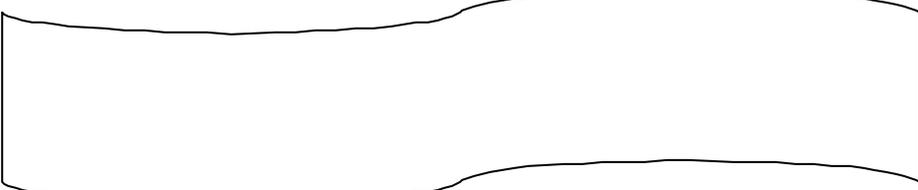
飛行軌跡データの属性例			
No.	フィールド名	内容	コード対応表
1	No.	種別・月別ファイル内で固有の番号、GIS作業上のフィールド。	
2	年月日	確認年(西暦)、確認月(西行)、確認日(西行)	
3	確認番号	確認表と対応する番号、確認開始から消失までをひとつのまとまりとしている。	
4	行動コード	凡例表示(線の種類、点の種類等)に必要なコード、デフォルト	行動コード
5	トレースNO	速報で用いている番号	
6	調査地点	観測地点	
7	種名	確認種名	
8	始時	確認開始時刻(秒) 09時5分15秒 090515)	
9	始分	確認開始時刻(秒) 09時5分15秒 090515)	
10	始秒	確認開始時刻(秒) 09時5分15秒 090515)	
11	終時	消失時刻(秒) (09時5分15秒 090515)	
12	終分	消失時刻(秒) (09時5分15秒 090515)	
13	終秒	消失時刻(秒) (09時5分15秒 090515)	
14	年齢	年齢コード	年齢コード
15	雌雄	性別コード	性別コード
16	個体識別	個体識別整理記号	
17	飛行高低	飛行高度低	
18	飛行高	飛行高度高	
19	LOST環境	ロストした環境	LOST環境コード
			
54	求愛給餌	特別な行動の一種。	
55	攻撃	攻撃の場合コードを記入	攻撃コード
56	確認状況1	確認状況(1~245文字目)	
57	確認状況2	確認状況(246~490文字目)	
58	確認状況3	確認状況(491~735文字目)	
59	推定つかい名		
60	同時確認地点		

図4 データ細目の例

調査員物語

シギチに熱中(症)しています…の巻

私、平川です。今シギチ(シギ・チドリ類)の調査をしております。暑いス！

後輩の大坪です

首やけ防止

調査は「大潮」の日を選びます。潮のサイクルはとても調査に重要なんです。

満潮

潮加減によって環境が変化すると見られる鳥の種類も変わりますので見易いところへ先回りしておく必要があります。だから古い干潟の中ではGPSがとっても便利！



うーん、まあ似たような模様しやがて…

シロチドリ (シロチドリ) ヨチドリ (ヨチドリ) ムナグロ (ムナグロ) シギ (シギ) チドリ (チドリ)

(注)シギチは地味で類似種が多く、更に換羽で色が変わる。



あ、あ、あ、

それにしても干潟はたまりよこの季節！

(注)シギチ調査は渡り鳥のため、8~9月(秋期)、4~5月(春期)に集中します。



あ！ア？ア？

あれま！平川さん、島にとり残されてうーケケケ…



ヤレヤレ、シギチは識別もしづらい調査も大変だよ…



だからこそ、『通』にはかえってたまらない世界らしいですけどね。



Y津干潟などには鳥見歴30年以上のベテランがいっぱいいるからオレ達もタジタジだよな。

ほほう、何を調べですか？



そういう人達からすると平川さんもまだまだヒヨコですよな！

ウルセー！おまえに言われたくねーよ！



ま、今後自然再生事業として海浜地帯、とくに干潟の重要性などもどんどん高まるわけで、こういうシギチの調査もきっと貴重な資料になるはずだぜ。

あ、あ、あ、

ハイッ！熱中症にはまって平川さんについてます



ところで、鳥観察の初心者には確かにシギチの識別は難しいけれど、デジタルカメラと望遠鏡(スコープ)があれば、鳥を覚えるのに便利です。

デジタルカメラ 接続アダプタ スコープ

参考サイト、digisco.com



山の鳥の写真を撮る時よりも、かえってシギチ類はあんまり動かないから、さざぎる物も少ないしね。写し易いんです。



自分の撮った写真で個体の識別ができるわけですから印象も深くなること、いい写真だろ大坪、ホレ見ろ！



どうです皆さん、ひと昔前、ボクたちヒギナーはこういうセンパイにネチネチいじめられながら覚えていくしか方法がなかったんですから！



ネチネチ、おまえなあ



逃げる時はシギチより速い！

コラーッ、おあつぽー、オレについてくるって、言っただろーか

原案：平川正詩(東京本社) 絵：飯塚 要



多様な日本の昆虫

日本の昆虫は多様である。どのくらい多様なのか、数字で表現してみる。

日本産昆虫総目録によれば、日本に生息している昆虫のうち、名前がついている種類数は約30,000種である。大まかな内訳は、鞘翅目（コウチュウ類）が10,000種、鱗翅目（チョウ、蛾）が5,000種、膜翅目（ハチ、アリ）が5,000種、双翅目（蚊、アブ、ハエ）が5,000種、半翅目（セミ、ウンカ、カメムシ）が3,000種、その他の目の合計が2,000種である。

ところが、日本の昆虫には名前がついていない種類（未記載種、未記録種）も数多く存在している。それらを大まかに想定すると、鞘翅目は5,000種、鱗翅目は3,000種、膜翅目は10,000種、双翅目は10,000種、半翅目は2,000種ほど存在していると考えられている。名前がついていない昆虫の種類数は、名前がついている昆虫の種類数とほぼ同じ30,000種ほど存在している計算となる。本当のところどうなのかは誰にもわからない。し

かし、「まだまだ日本には名前がついていない昆虫が数多く存在している」という事実は、種類数の多いグループに取り組んでいると、ある程度実感がわいてくる。例えば、双翅目のガガンボ科では名前がついた種類は日本に約700種ほど生息しているが、名前がついていない種類はおそらくその3倍生息しており、合計で3,000種前後は生息しているであろうと推定されている。同様に鞘翅目のハネカクシ科では名前がついた種類は1,500種程度だがおそらく3,000~4,000種、膜翅目のヒメバチ科では名前がついた種類は1,200種程度だがおそらく3,000種前後、双翅目のユスリカ科に至っては名前がついた種類は800種程度だがおそらく5,000種以上は生息しているのではないかと推測されている。ものすごい数字である。

世界で一番昆虫の解明が進んでいる国はイギリスである。イギリスの昆虫の解明度は99%程度だと云われており、その

ウォンテッドカルテ その1

種名	アカハネバッタ		
	直翅目	科名	バッタ
	<i>Celes skalozubovi akitanus</i> (Shiraki,1910)		
目名	直翅目	科名	バッタ
珍品度	形態		
	25~27mm、35~40mm 中型のバッタ。褐色。 後翅基半部が赤いため、アカハネバッタの名前がついた。 後腿節の背面より内側に黒褐色の3帯があり、後腿節には3個の暗い藍色の環がある。 はためでずんぐりしている。		
分布	本州（秋田県、新潟県、東京都、長野県） 国外では朝鮮半島北部、中国東北部、内モンゴル、東シベリア		
生態	7月から8月に採集例がある。 まばらな松林などの下草に生息する。地上性である。 産地は局限され極めて少ない。		
その他	知る人ぞ知るバッタ界の超ウルトラ級の珍品である。 一番最近の採集例は10年以上前に新潟県柏崎市の松林で採れたつきりである。 今年、北海道大学図書刊行会から発行予定の日本産直翅類大図鑑に載せるために、多くの日本直翅類学会会員が本種に挑戦したが、結局誰も採れなかった。		

ウォンテッドカルテ その2

種名	フサヒゲサシガメ		
	半翅目	科名	サシガメ
	<i>Ptilocerus immitis</i> Uhler,1896		
目名	半翅目	科名	サシガメ
珍品度	形態		
	体長6~7mm。 淡黄褐色で光沢があり、極めて長い同色の剛毛でおおわれる。 腹部下面基部に長毛を密生した特殊な腺の開口部がある。腹部の腺はアリに対する誘惑腺と考えられている。		
分布	本州、九州		
生態	松の樹皮下で群生しアリを捕食する。		
その他	体が扁平で、触角と脚にフサ状の長毛が密生している。形状が珍しい上に松の樹皮下でアリを集めて捕食するという奇習が知られているため、カメムシ屋なら誰もが一度は手にしたいと思う大珍品である。 本種の確実な記録は、和歌山県橋本市1950年3月18日採集の5個体である。それ以降50年以上確実な採集記録がない。 最近発行された和歌山県レッドデータブックでは絶滅種とされている。		

【参考文献】

<アカハネバッタ> 宮武頼夫・加納康嗣(1992)検索入門セミ・バッタ,保育社 / 小林正明(1981)信州の秋に鳴く虫とそのなかま,秋の虫の会
 <フサヒゲサシガメ> 朝比奈正二郎・石原保・安松京三(1965)原色昆虫大図鑑,北隆館 / 後藤伸(1996)紀州で"むかし"採れたカメムシ類
 その後見つかりませんか【1】,かめむしニュースVol.4:4-5 / 宮武頼夫(2001)保全上重要なわかやまの自然 昆虫類,和歌山県環境生活部

種類数は18,000種程度である。解明度99%で種類数が18,000種のイギリスに比べて、解明度50%以下で種類数が30,000種の日本は、ものすごく昆虫が多様な国であると言い切れる。と同時に、日本の昆虫相が100%解明される日は、はたしてやってくるのだろうかと少々悲観的な思いにもかられてしまう。現在の30,000種に到達するのに、明治時代から約100年かかっている計算になるから、残り30,000種の解明にはあと50年以上はかかりそうな気がする。昆虫の分類で生計を立てることがほとんど出来ない日本では、これよりも早くなることはまずないであろう・・・残念ながら。

ハチハエカメムシは宝の山

チョウ カミキリムシという虫屋の王道を歩いてきて、ある日発作的に「よしハエをやろう！」と決めてから、5年ほどが経つ。良い図鑑があり、多くのプロ

アマが活動している鱗翅目と鞘翅目に比べて、図鑑では同定が困難でプロアマも非常に少ない膜翅目、双翅目、半翅目など（一言で言えばハチハエカメムシ）に取り組んできたが、これらはまさに宝の山である。宝が多すぎて、どれから手をつければいいのか、途方に暮れる日々である。

自宅から30分ほどの狭山丘陵で、あっけなく未記載種や日本未記録種ではないかと思われる種類が採れてしまう。実に経済的である。他に研究している人がほとんどいないため、自分の採集記録がすぐに新知見になってしまう。実に目立ちたがり屋向きである。

チョウやカミキリムシと、ハキリバチやハナアブは昆虫としてはまったく同じはずなのに、一方は日本全国の記録がたくさんあり、一方は記

録が皆無の都道府県すらある状況である。マイナー昆虫に取り組んでいると、アマチュア虫屋のバランスの悪さを痛感する。もっと多くのアマチュア虫屋が、「未記載種や未記録種は当たり前」のわくわくするようなマイナー昆虫の世界に来てほしいと思う。

ところで、チョウやカミキリムシと同じように、ハチハエカメムシにも珍品は存在する。しかし、それらは図鑑類ではなかなかわからない。そもそも図鑑では、どれが普通種でどれが珍品なのか、何も書いていないことが多い。しかし、確実に珍品は存在する。しかも、チョウやカミキリムシと比べても、遜色ないほどに採集困難な種類が多く存在する。それらについて少し紹介する。下記カルテを読んで、少しでもマイナー昆虫に興味を持つ人が現れれば幸いである。

(東京本社自然環境研究室・伊東憲正)

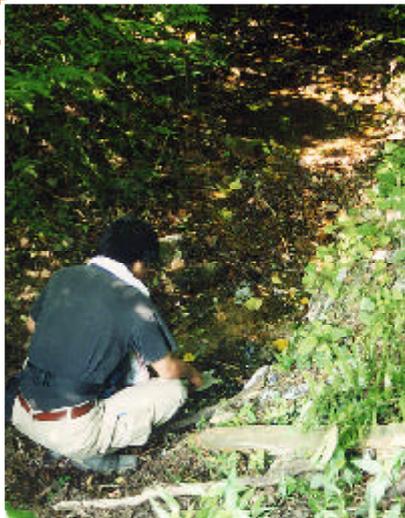
ウォンテッドカルテ その3

ウォンテッドカルテその4

種名	トラツリアブ <i>Anastoechus nitidulus</i> (Fabricius,1794)		
目名	双翅目	科名	ツリアブ
珍品度			
	形態		
	体長8~14mm 銀白長毛が体に密生する。		
分布	本州、四国、九州 国外では全北区		
生態	年1回秋季に出現する。		
その他	双翅目談話会の主要会員に採集経験者が一人もいないため、現在までまったく手がかりがつかめない大珍品のツリアブである。 名古屋の岡田正哉氏に聞いたところ、かつて愛知県定光寺で見たことがあるとの事。ツリアブ科はハナバチ類に寄生するので、秋に発生するムカシハナバチ科の珍品に寄生するのもも知れない。最近発行された大阪府野生生物目録に大阪府での記録が載っているが詳細は不明。		

種名	ウスルリモンハナバチ <i>Thyreus centrimacula</i> (Perez,1905)		
目名	膜翅目	科名	コシブトハナバチ
珍品度			
	形態		
	体長12mm内外 ルリモンハナバチに似るが、体の斑紋はルリモンハナバチが青色なのでに対して白青色である。斑紋にも違いがある。		
分布	本州（栃木県、千葉県、兵庫県、岡山県）、九州（鹿児島県）。岡山県では瀬戸内海の鹿久居島に比較的多い。		
生態	コシブトハナバチ科の稀種シロスジコシブトハナバチに寄生する。成虫は7月~9月に見られる。		
その他	日本産昆虫総目録に未掲載の種で、各種図鑑類にもほとんど載ったことがない非常に美しいハナバチ。関東での確実な記録は千葉県の3例（市川市1958年8月、成田市1968年8月、銚子市1969年8月）のみである。 寄主であるシロスジコシブトハナバチが大珍品なので、それに寄生する本種はスーパー大珍品であるといえる。		

<トラツリアブ> 朝比奈正二郎・石原保・安松京三(1965)原色昆虫大図鑑,北隆館/大阪府(2000)大阪府野生生物目録
<ウスルリモンハナバチ> 中村和夫(1997)レッドデータブックの改訂と栃木県のハチ類,インセクト48(1):45-53/須田博久(2000)千葉県の保護上重要な野生生物 ハチ目,千葉県環境部自然保護課



左 : 石をめくってカエル探し
 右上 : カメ探し (近くに、民家があると勘違いされそうです)
 右下 : 水田の水路でオタマジャクシ探し

「なにしてまんの?」「何かの調査ですか?」

現地調査に出ると、地元の方に不思議そうな顔でしゃべりかけられることがあります。「ガスのメーターなら向こうですよ。」と言われたこともあります。

「はい。生き物の調査です。」
 「生き物の調査?」「はい、ヘビとかカエルの調査です。」「あーそうですか。暑いのに大変やねー。」
 多くはこんな感じで始まり、会釈をして調査を再開します。冬の調査で「寒いやろ。あたっていき。」とたきぎをしている優しい方にお会いしたこともあります。「これ持っていき。」とミカンをいただいたりすることもあるそうですが、いただき物は女性調査員に多い傾向があるようです。また、話好きなおば(あ)さまにつかまると、どんどん勝手に話が進んでいきます。「ヘビねー。イノシシはようけおるよ。」と生き物の話をするのかと思いきや、「私ここに嫁いできて50年になるんですけど、おとしじいさんが死んで、私

ある日のフィールド・ノートから

なにしてまんの?

一人で畑やってますねん。息子は先週帰ってきたんやけど・・・。」

この時はどうやら私を県の職員と思いつ込み、畑の食害がひどいのでネットを張って欲しいということが言いたかったみたいです。

これはまれな例ですが、地元の方から参考となる生き物の情報が得られることがあります。特に、河川で魚類調査を行っている時にしゃべりかけてくる方には、子供の頃に魚捕りをされていた方が多いようです。さすがに投網やタモ網を持っているので「なにしてまんの?」と尋ねてはきませんが、「何が捕れた?」とか「大きいの捕れたか?」とか尋ねられます。

「ドウゼンは今でもようけおるやろ? アカバチはおったか?」

地方名でおっしゃるので、はじめは何のことかわかりませんが、話を聞いていくうちに「ドウゼン=カマツカ」、「アカバチ=アカザ」ということがわかり、昔の川の様子などを詳しく教えてくださいました。

聞き取り調査以外でこちらから地元の方に話しかけることはありません。しかし、地元の方から昔の様子をはじめ、昔どこにどんな種が生息していたかなど、なかなか文献からは得られないような、地元の方しか知り得ない「地域の情報」をもった方に出会うときがあります。このような情報は調査にとっても役立つ場合があります。そこで、私は「なにしてまんの?」と地元の方に声をかけたたら「はい。生き物の調査です。」と不審がられないように笑顔で返事をして、たとえ話し好きなおば(あ)さまの身の上話であろうと「地域の情報」が含まれていないかどうか、聞き逃さないようにしています。
 (大阪支社自然環境研究室・田中宏治)

ご意見 ご質問
 お待ちしています

素朴な疑問やご感想など下記のアドレスまでお寄せください。お待ちしております。

E-mail :nl-info@chiikan.co.jp

編集後記

最近、都市近郊二次林の植物を対象とした研究をしているが、「こんな奥までが進出しているのか!」「こんな街中でもが残っているのか!」という具合にオドロキと発見の連続である。そんな中に、園芸種だらけの雑木林がある。鳥が人家や街路植栽の木の実を食べて、糞として種子散布をしたもので、林内はシュロ、ヒイラギナンテン、トウネズミモチなどなど、外来園芸樹種のオン・パレード。どうみても、在来の植生の攪乱。しかし、これらのタネも冬の鳥の重要な餌資源であることを考えると、とても悩ましい。

自然再生や都市再生が言われる昨今ですが、概念整理からして、難しいものですね。
 (根本 淳)

News Letter NO.20 2003年11月

【発行】.....株式会社地域環境計画

発行人.....高塚敏

編集中山香代子・根本 淳・鈴木志保子・釣谷佳子・高岡由紀子

東京本社 〒154-0015

東京都世田谷区桜新町2-22-3 NDSビル

TEL 03-5450-3700 / FAX 03-5450-3701

営業窓口...鈴木志保子・根本 淳・高岡由紀子

大阪支社 〒569-1123

大阪府高槻市芥川町1-15-18 ミドリ芥川ビル

TEL 072-684-3182 / FAX 072-684-3184

営業窓口.....中山香代子

北海道支社 〒001-0017

北海道札幌市北区北17条西5-20-303

サンオービルF

TEL 011-717-8001 / FAX 011-717-8021

営業窓口.....中島正雄